

## 日本文学講座

[講座紹介] 古代から現代に至るまで、日本語によって書き伝えられ、読み継がれてきた文学の精華——今に生きるわたくしたちの心を揺り動かす作品の数々を、本文に即しながら、丁寧に読みほぐしていきます。

時間 土曜日 13:30~15:30

場所 文化センター別館3階視聴覚教室  
ほか※

定員 80名 受講料 1,800円

回	日 程	テーマ (内 容) / 講 師
1	6月17日	<p><b>「異本で読む『平家物語』 —〈通盛の最期〉—</b></p> <p>今回で11回目になる「異本で読む『平家物語』」では、諸本間で異同の多い平通盛の最期を取り上げます。通盛は能登守教経の兄で、能「通盛」の主人公です。異本の比較によって何が見えるかをお話しする予定です。</p> <p>講師 小助川 元太 (愛媛大学教育学部教授)</p>
2	6月24日	<p><b>「万葉集と宴」</b></p> <p>『万葉集』には、現在の元号「令和」の出典となった“梅花の宴”など、宴席で詠まれた歌が数多くあります。万葉びとは、宴でどのような歌を詠んだのか、いくつかの宴を取り上げ、宴における歌の特徴を探っていきます。</p> <p>講師 秋山 英治 (愛媛大学法文学部教授)</p>
3	7月22日	<p><b>「大江健三郎と『戦後の精神』」</b></p> <p>大江健三郎は、日本のみならず世界的にも著名な愛媛出身の作家です。「戦後」を生きた若者たちにとって、好むと好まざるとにかかわらず、大江文学は世界の指標でした。その文学の一端を、「戦後の精神」「四国の谷の森」といったテーマから読み解きます。</p> <p>講師 中根 隆行 (愛媛大学法文学部教授)</p>
4	10月7日	<p><b>「三浦綾子『千利休とその妻たち』」</b></p> <p>前回の井上靖『本覚坊遺文』に続き、千利休をテーマにした作品を読み比べていきます。先妻のお稻と、後妻のおりき(宗恩)との関係を軸に、理想の茶の湯を追い求める利休の姿がどのように描かれているか、読み解いていきます。</p> <p>講師 越智 隆浩 (愛光学園教諭)</p>
5	11月11日 ※生涯学習 センター 第1研修室 リモート	<p><b>「別子各集落の風情を俳句とともに味わう —東平や筏津、鹿森など—</b></p> <p>別子銅山各集落の暮らしぶりをゆかりの俳句作品とともに味わいます。具体的には東平、鹿森、また別子山村の筏津集落であり、各土地ゆかりの逸話や俳句、写真等を参照しながら往事の生活の面影をたどっていきます。</p> <p>講師 青木 亮人 (愛媛大学教育学部教授)</p>
6	12月16日	<p><b>「『狭衣物語』をよみつぐ—「今姫君」の人物形象—</b></p> <p>平安後期のつくり物語『狭衣』四巻は、平安中期に成立した『源氏物語』を意欲的に摂取しながら形成されています。今回は「今姫君」が登場する巻一の場面描写をたどりながら、その趣向のありようを具体的に読み解いていきます。</p> <p>講師 西 耕生 (愛媛大学法文学部教授)</p>